



# 萌

も え る

winter, 2020  
NISHI YOKOHAMA INTERNATIONAL HOSPITAL

## 新任医師のご紹介

在宅医療センター 専従

**坂本 雄大**  
さかもと たかひろ



本年1月より赴任いたしました、坂本雄大です。専門は脳神経外科ですが、数年前より訪問診療医として活動をはじめ、この度在宅医療センターで働かせていただくことになりました。脳神経外科医、訪問診療医として、私も生まれ育った横浜で皆様の心と体に寄り添った診療ができるよう精一杯頑張っております。今後とも宜しくお願いいたします。

## 健康管理が気になる季節です。健康診断していますか？

職種や性別、体調へのご心配事等、様々なニーズに対し、それぞれに適した人間ドック・がん検診のプランをご提供しています。健康管理センターでは基本的な人間ドックを中心に、脳ドックやレディースドック、睡眠時無呼吸症候群、内臓脂肪、横浜市がん検診等、多様なメニューをご用意しており、それぞれのご要望に応じた健診プランのご提供が可能です。また、院内各診療科や地域の医療機関と連携し、二次検査や精密検査、治療がスムーズに行える体制を整えております。



**健康診断のご予約・お問合せ 045-861-8430 (直通)**  
【月～金曜日】 9:00～16:30 【土曜日】 9:00～12:00

**病院理念** 安心・安全の医療～患者さんと共に～

**基本方針** 良質な医療の提供・地域医療への幅広い貢献・生命と人権の尊重

- 病院ビジョン**
1. 急性期から在宅まで、シームレスなサービスの提供により地域へ貢献する
  2. 患者・利用者・家族に積極的に関与し、個別のニーズを追求する
  3. やりがいと喜びを育み、全職員参加型の活気あふれる組織を構築する

病気の治療は、医療を受ける側と提供する側の共同作業です。西横浜国際総合病院では、「患者さんの権利と患者さんへのお願い」として、9項目を定めています。詳しくは、院内の掲示をご覧ください。

■ 診療受付時間	平日・土曜とも 午前 8:30～11:30 平日のみ 午後 0:00～4:30
■ 診療開始時間	午前9:00～ 午後 1:30～(平日のみ)
■ 診療科目	内科(一般・腎臓・呼吸器・循環器)・外科(消化器科・乳腺甲状腺外科・耳鼻咽喉科・整形外科)・泌尿器科・神経内科・眼科・脳神経外科・精神神経科・麻酔科・リハビリテーション科



萌  
2020年冬号  
発行  
西横浜国際総合病院

**INFORMATION**

- ・年頭のご挨拶
- ・変形性膝関節症と人工膝関節置換術
- ・新任医師のご紹介
- ・健康診断のご案内

**VOL.61**  
ご自由にお持ち帰りください。  
TAKE FREE

# 安心・安全の医療

～患者さんと共に～

## 2020年 年頭のご挨拶



西横浜国際総合病院 院長  
**三瓶 建二**

2020年を迎えました。病院は入院患者さんを抱えているため、24時間365日機能を続ける不夜城ではありますが、今年も1月4日より外来を開始し、心新たに職員一同、地域医療への貢献を祈念するものであります。

ところで私は昨年1月より院長を拝命し病院運営に当たってきました。病院としましては外来予約システムの一部導入とそれに伴う病院開業時間の8:30への移行、電子カルテのバージョンアップなど新たな取り組みを行い、一部混乱とご迷惑をおかけしましたが、漸次定着してきた印象を持っています。

また、昨年夏は幾度となく大型の台風が襲来し、関東地方でも大規模な災害にみまわれたことはまだ記憶に新しいところです。当院でも外来の臨時休診を余儀なくされた他、地域停電により病院業務に一部混乱をきたしました。この反省を生かし、台風における停電、水害対策を徹底し、また、来たるべき大地震などの大規模災害においても、安心して当院を受診していただける体制作りを喫緊の課題として取り組んでいる最中であります。

当院は在宅療養支援病院として地域の皆様方に在宅医療を提供してまいりました。この1月より、新たに在宅医療専従医が加わることになりました。これまでは各診療科の医師が兼任で在宅医療を行っていましたが、専従医が加わることで、より幅広い在宅医療のニーズにお答えできるのではないかと考えています。

さて、巷では本年オリンピック・パラリンピックがあり、地元横浜も一部会場になることが予想されるなど浮き足立った状況ではありますが、当院としましてはしっかりと足元を見ながら地域医療への貢献を実現していきたいと思っています。

## 人生100年時代に向けて



西横浜国際総合病院 理事長  
**高木 啓吾**

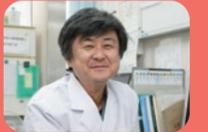
1964年10月10日快晴の秋空にブルーインパルスによる五輪を自宅の窓から見て感動しました。当時、私は詰襟(つめえり)の制服をまとった高校生でした。1ドル360円の時代、戦後復興の日本はその前後で大きな変貌を遂げ、世界に羽ばたきました。この変貌は勿論医療の分野にも影響を与えました。今年東京オリンピックを迎え社会はまたどのように変貌するでしょうか、期待しています。

今、医療・介護は多くの職種が患者さんを囲む「多職種連携」のもとで発展しており、皆さんの希望に沿ってお世話することが出来るようになってきました。人工頭脳(AI)も加わってきました。そして、人生100年時代に向けて、どのようにしたら幸せな人生を送れるのかを地域社会との繋がりを意識しながら検討しています。皆さんには、自らの人生をどのように過ごしたいかを頭脳明晰なうちにご家族と共有していただくことをお勧めします。

勿論、皆さんの日頃の健康意識が第一です。運動、気力の維持増進、そして社会とのコミュニケーションは欠かせません。西横浜国際総合病院はさまざまな情報を提供しながら、人間の尊厳を優先し地域に根差した医療を進めています。皆さんと一緒に解決していきましょう。どうぞ忌憚のないご意見をお寄せください。

## 変形性膝関節症と人工膝関節置換術

西横浜国際総合病院 副院長兼、整形外科部長 **濱 裕**



膝の痛みで整形外科を受診される方は年々増加傾向にあり、その大部分が徐々に軟骨がすり減る「変形性膝関節症」といわれる状態です。

その原因は体質や年齢によるところが最も大きいのですが、それまでの膝の酷使や怪我によるもの、関節リウマチなどが関与していることもあります。診断は基本的に触診やレントゲンにて行われますが、レントゲンも場合により数種類の撮影法で行われることもあり、MRIと呼ばれる細部の状況がわかる検査も多用されます。

治療は内服や外用薬、膝関節のヒアルロン酸注射および生活習慣指導などが行われ、これで日常生活に不便がなくなれば、その続行で問題はありません。

これでは治療効果がなされない、あるいは初診時から高度な変形があり投薬等では加療が困難と判断された場合は手術的加療となります。手術は「人工膝関節置換術」が中心になります。症状や変形がさほど重くない時には関節鏡という内視鏡を用い膝関節内の壊れた半月板などを部分的に切除する手術もありますが、その予想効果から手術適応はかなり狭くはなってきます。

人工膝関節置換術は膝関節の上下の壊れた軟骨や骨を薄く切り取り、それを金属で置換して金属の間にプラスチックをはめ込むというものです。人工膝関節は当院では関節軟骨全域を金属に置換する従来の「人工膝関節全置換術」と膝の内側部分に変形している場合に内側部分のみ人工関節に変える「人工膝関節部分置換術」の2種類の手術方式をとっています。



人工膝関節全置換術 (正面・側面)



人工膝関節部分置換術 (正面・側面)

この手術方法の選択はいくつかの条件により決められますが、レントゲン、MRI 検査、リウマチ疾患などの有無、骨の強度、場合により年齢、肥満の程度により判断され、患者さんにしっかり説明し納得していただいた上で決定します。

全置換術の良いところは、すでに実証されている長期の術後成績であり、高齢になり骨が弱くなってもかなりの安定性が期待できることが挙げられます。

部分置換術の良いところは術直後の膝の疼痛が全置換術に比べ軽めであることや輸血を要することが少ない、また膝の動く角度が大きいことが多いなどですが、外側の変形が生じてきた場合には全置換術への再手術を要する可能性があることや長期成績に関しての報告はまだこれからというのが現状です。

また当院では手術の説明は執刀する医師によってなされ、入院中の主治医と術後の外来も同じ医師が担当しますが、これは医師と患者さんとの信頼関係につながるものとも考えています。

変形性膝関節症の状態は様々であり、その患者さんの年齢や活動性、ニーズも多様です。手術以外の加療も含め、その方に最も合った治療方法を患者さんと話し合いながら選択していきたいと思いますので、当院整形外科の常勤医にお気軽にご相談下さい。